

## 国語科

## 第〇学年 国語科学習指導案

## R2年度 那覇市様式

令和 年 月 日 ( ) 校時 : ~  
( ) 学校 年 組 名  
指導者 (印)

【年間指導計画 ( ) 学年 ( ) 月計画 P ( )】

身に付けさせたい力(指導事項)を明確にし、言語活動を設定しましょう。また、学習のゴールが見えるような単元名を設定する。

## 1 単元の概要

単元名 教材名	(例) 視点を変えて物語を作成してみよう (教材名「走れメロス」「表現の仕方を工夫して書こう」)
目標	

評価規準 国語への関心・意欲・態度	文末「～しようとしている。」等 <b>必</b>	「関心・意欲・態度」と「知識・理解・技能」は必ず入れます。「話す・聞く」「書く」「読む」は重点的に指導する項目を選択して設定して下さい。また「おおむね満足」の姿(観点別評価B)を記載する。
話す・聞く能力	文末「～ができる。」(A(1)ウ)等	
書く能力	文末「～ができる。」「書いている。」(B(1)エ)等	
読む能力	文末「～ができる。」「読み取っている。」(C(1)ウ)等	
言語についての知識・理解・技能	文末「～理解している。」等(伝国(1)イ(オ)) <b>必</b>	

※移行期間中の学習評価の在り方については、現行学習指導要領の評価規準に基づく記述とする。

## 2 単元について

## (1) 生徒観

レディネストestの結果などから、今までの学習で身に付いている資質や能力、不十分な点について記述する。

- 単元で身に付けるべき力に対する実態把握について記述する。
- どこでどのようなつまずき(課題)があるかを分析し、指導観に記載する手立てと連動する。

## (2) 教材観

単元目標と関連させ、本単元の学習課題を明確にして記述する。

- 教材の特性と指導事項を学習指導要領に照らして、その教材の価値を記述する。

## (3) 指導観

ねらい達成に向けて、どこで、どのような手立てをするのか、指導のポイントを記述する。

- (1) (2) の記述を踏まえ、子どもの不十分な点を補う手立てを具体的に記述する。
- 目標に照らしてその実現状況を観点ごとにどのように評価するのかを記述する。

## 3 単元の指導計画 (例) ※全部記載する。

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
第一次	1	生徒の課題を踏まえ、言語活動を通して、指導事項を指導することを明確にした単元づくりをする。		
	2			
第二次	3 本時	・単元の学習活動全体を、数時間ごとにひとまとめのものとした区切りを「次」と呼ぶ。 ・例えば、単元全体の導入に当たる部分を「第一次」、学習活動の中心的な部分を「第二次」、学習成果を発表・交流する部分を「第三次」と設定することができる。 ・単元全体を見通した視点で授業づくりを行う。		
	4			

## 4 本時の学習指導について

## (1) 本時の目標

- 1つか2つにしほる。
- 単元目標と関連させる。

本時の授業のどこで、どのような指導の在り方や方法を提案しようとしているのか、学習指導要領を踏まえて簡潔にまとめる。

## (2) 授業仮説

「〇〇〇において、  
場・内容の限定  
投入条件  
方法・手立て

〇〇〇すれば、  
〇〇〇になるであろう。  
身に付けさせたい力(資質・能力)  
ねらい・めざす子ども

教材研究や授業展開に沿ってマイノートを活用し、検討する。

	学習活動	指導上の留意点 ○教師の手立て □予想される生徒の反応	評価項目(方法)
導入～分	1 具体的な学習活動について、生徒の立場から記述する。	○下記の項目を参考にして適宜記載しましょう。 ・本時の目標を確認し、生徒に学習の見通しをもたらせるような、「めあて」を生徒向けの言葉で提示する。 ・生徒の学習意欲を促すような資料、問題提示の工夫をする。	どの観点で どのような方 法で評価する のかを記載す る。 (例) 第1時
	2 めあて	○下記の項目を参考にして適宜記載しましょう。	【読む】 (ノート記述) (概ね満足) 主人公が誰であるかを把握し、描写を根拠として、感想を書いている。 (十分満足) 主人公と他の登場人物との関わりを把握し、描写を根拠として、感想を書いている。
	3 (1) 「授業仮説」につながる学習活動は分かりやすく表記する。(例: 太字ゴシック体等)	・予想される生徒の反応(言動や反論等)と、それに対応した教師の手立てを順序立てて記述する。 ・自分の考えを書く活動を取り入れる。 ・ペアやグループ、全体でかかわり合い、学び合う活動を取り入れる。 ・支援を要する生徒のつまずきとそれに対応した教師の支援方法を書く。	主人公と他の登場人物との関わりを把握し、描写を根拠として、感想を書いている。
	(2) (3)		
	4 まとめ	○下記の項目を参考にして適宜記載しましょう。 ・「めあて」と正対した「まとめ」について記述する。今日の授業で「何を学んだか」を明確にする。生徒の言葉を生かしてまとめる。 ・本時の学習で分かったことやできるようになったこと、次の課題などについて、生徒に振り返らせる。	単元の評価規準 を具体化し、 本時において 1～2観点を 評価する。

※板書計画を含めて、3ページで作成して下さい。

(4) 板書計画（写真も可。項目だけでなく、実際に板書することを書く。ICT機器の活用等についても記載）

身に付けさせたい力（資質・能力）が明確な板書計画を立てる。 授業アイディア例（H26）より

例①<共通点や相違点をまとめた板書例>

「めあて」「まとめ」も板書する。

ちがう点		（共通点）	
① 二連	② 二連	③ 二連	① たんぽぽと人や生き物とがお互いに呼びかけている。
④ 文末は「です」や「ます」になっている。	⑤ 句読点が無い（わかつ書き）。	⑥ それぞれの動物の鳴き声などに「タンボボ」を重ねている。	② たんぽぼと人や生き物が仲良し。
⑦ タンボボ（カタカナ）	⑧ 文末は「～しょう」と「だ」が混ざっている。	⑨ 三連	③ 連に分けられている。
【詩1】	【詩2】	【詩1】	【詩2】

例②<文と文をつなぐ、二文を一文にする指導の板書例> …全国学力・学習状況調査で課題

◎文と文をつなぐ方法

例一 本 文

すぐれた鼻を使うことで、水場や食べ物をさがすこともできる。また、においのちがいで仲間を見つけることもできる。

例一 誤答例

水場や食べ物をさがすことができる。さらに、においのちがいで仲間を見つけることもできる。

例一 例一は、本文をそのまま写しており、一文の意味を正しく理解していません。

例一は、接続語を別の接続語に書き換えているだけで、文と文のつなぎ方を理解していません。文と文のつながりを考えてみましょう。

方法④ 「～こと、～こと」を使ってまとめる。

方法③ 「～も、～も」を使ってまとめる。

方法② 「～や～を 使ってまとめる。

方法① 「～たり、～たり」を使ってまとめる。

すぐれた鼻を使うことで、水場や食べ物をさがすことも、仲間を見つけることができる。

すぐれた鼻を使うことで、水場や食べ物をさがすことも、仲間を見つけることができる。

すぐれた鼻を使うことで、水場や食べ物をさがすことも、仲間を見つけることができる。